



かどや通信

第14号

発行日：平成28年7月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

明治の音色に酔いしれて 長尾ベビーオルガンが歌う

第三十九回かどや屋下がりコンサート「長尾オルガンクラシックコンサートⅡ」が、六月五日に開催された。

ベビーオルガンと呼ばれる三十九鍵の小さな長尾オルガンのコンサートは、毎年かどやで数回行われているが、今回は昨年大好評だった京都市在住の大森幹子さん(八十四歳)に再びお越しいただき、約三十人が明治時代に作られたオルガンの優しい音色を楽しんだ。

前半は、アメリカングレイスやアベマリア等、外国の曲を演奏。オルガンの歴史や日本でオルガンが普及した経緯なども解説してくれた。後半は、大森さんが師事した大中寅二氏(1896年～1982年)が今年生誕百二十年を迎えることから、オルガニストであり、「椰子の実」(詩：島崎藤村)をはじめ教会音楽や歌曲、子供向けの唱歌等を多数作曲した寅二の偉業を紹介した。晩年までの約三十年間にわたる師

とのエピソード等をユーモアを交えて語り、今では演奏されることも少なくなった名曲の数々を披露した。



大森さんは、長年大学で幼児教育についての教鞭をとってきしたが、忙しい合間を縫って寅二と共にコンサート等で演奏する

ことも多かった。また、日本基督教団洛陽教会(京都市)のオルガニストとして現在も活躍中で、長年培った確かなテクニックが紡ぎだす音色には格別な響きがあり、長尾オルガン独特の華やかで優しい音色を存分に引き出し、参加者を魅了した。長尾オルガンは、松阪の長尾芳蔵氏(1846年～1904年)が製作し、廣野家(かどや)が所有していたが、昭和三十年代に壊れて同家の蔵に眠っていたところ、平成十一年にオルガン奏者の佐藤泰平さん(仙台市在住)によって発見された。故清水美小枝さんを中心に改修のための募金活動が行われ、故山口典次

さん(長野県)の手によって明治の音色が蘇った。現在は、鳥羽長尾オルガン協会会長・川村光徳が管理・運営している。なお、現在確認されている長尾オルガンは、このオルガンを含めて3台のみである。

「ト救世主、現る！」

「縁の下の仲間たち…その3」
これまで、縁の下の仲間たちとして、文芸や環境美化等に強いボランティアさん達を紹介してきたが、なんと「ト」に滅法強い若き助っ人も現れた！

ある日、おもむろに玄関に現れたノリさんが「ト」用の強い電波がこの辺から出てるのですが、かどやさんからですか?」と問いかけてきた。だが、館長も熟年スタッフも「はて?」「と首をかしげるばかり。すると、またまたおもむろに見させてもらってもいいですか?」「もちろん」とスタッフが目を見つめると、前から気になつてたんですが、電波はやっばりここからでした!」とノリさんの目も輝いた。

これを契機に、「ト」の設定はもちろん、来館者用に張り紙まで作成してくれたのだ!さらに、かどや通信十二号で紹介したトモ君作成のかどやのPR動画も見やすく設定してくれて、口づても声かけてください!などと優しいお言葉も。

そんなこんなで、ノリさんの強力サポートは今も続いている。(感謝!)

鳥羽の偉人たち

六月のかどや塾では、時代は異なるが鳥羽市民として誇らしい二人の偉人が紹介された。

《鳥羽に過ぎたるもの・・・》

柔術家・荒井十内

第三十一回かどや塾では「鳥羽偉人伝・柔術(柔道の達人・荒井十内)」と題して、江戸時代後期に鳥羽稲垣藩の柔術家として活躍した荒井十内について、鳥羽商船高等専門学校元教官の村林正美さんにお話しいただいた。

当日は、鳥羽郷土史会会長の濱口巖さんの挨拶に続き、同会員で富士山信仰浅間さんを研究している江崎満さんが登場。当講演会のきっかけとなった古文書発見の経緯について説明した。数年前から浅間さんの研究に打ち込んでいる江崎さんは、今浦浅間堂の古文書調査の際に偶然荒井十内等の柔術免許状を発見。そこで、古文書に精通し、かつ現在も鳥羽商船・柔道部の顧問として活躍している村林さんに免許状

等の解説を依頼したことが発端となったと語った。

村林さんは、荒井十内(1792～1852)の活躍について、鳥羽藩の武術教育に始まり、十内の修業時代から師範見習いや師範時代の行動を発見された免許状等と照らし合わせて分かりやすく解説した。

鳥羽藩士の子として生まれた十内は、若い頃から柔術に励み、二十

代前半には稲垣藩で彼の右に出る者はなく、近隣諸藩に修行に向き、特に桑名藩や尾張藩では技を講じた程だった。三十二歳で師範見習い、四十二歳で柔術師範となり、四十七歳で江戸の鳥羽藩邸内に道場を開いた。沈着金剛で胆力に優れた十内には、藩の子弟のみならず、他藩の士も競って弟子入りしたそう。当時、江戸では「鳥羽のお下(もと)に過ぎたるもの三つあり、小浜大海、荒井十内、青の峰の山門なり」と謳



われたほどだったという。なお、発見された免許状は、他藩の師範から十内等

に発給されたものと、十内が弟子たちに発給したものがあり、当時の他藩との交流等が、免許状を介して読みとれた。

参加者からは「当時の鳥羽藩の様子が想像できて、非常に興味深い内容だった」等のコメントが寄せられた。

《坂手島出身の画家

嶋谷自然に魅せられて》

第三十二回かどや塾では「アートによる島おこし」坂手島を舞台に」と題して、かどやのPR動画を作成してくれたトモ君こと小久保具彦さんが講演した。

故郷である鳥羽や志摩地方をこよなく愛するトモ君は、坂手島にも興味を抱き、現状や魅力を調べたところ、同島出身の偉大な日本画家・嶋谷自然(1604～1668、本名：藤四郎)の存在を知った。自然は、二十五歳で帝国美術展覧会に初入選し、四十六歳で日展の特選・白寿賞・朝倉賞を受賞した。その後毎日展で特選や文部大臣賞等を受賞するなど輝かしい成果を収め、一時期鳥羽でも自然ブームが起こったが、



今やその功績を知る人も少なくなっている。その現状を残念に思ったトモ君は、鳥羽市内に自然の作

品を鑑賞できる場所を作れば、市民の誇りとなり、観光客には彼の作品の素晴らしさを知ってもらうこともできると考え、なんと早速、自費で六点の作品を購入したそう。かどや塾の会場に展示してくれた。

トモ君は「坂手島はこの四十五年間で人口が約五分の一に減少し、空き家も増えている。しかし、鳥羽から船で十分の近さで、船便も多く、離島情緒あふれる街並みが残る魅力的な場所だ。作品展示場の実現はまだまだ先のことだが、自然の認知度アップと坂手島の活性化の一助になるような仕掛けをこれからも模索していきたい」と締め括った。

赤崎祭を生花で彩る 錦町婦人会の力作並ぶ

鳥羽に夏を告げる赤崎祭が六月二十二日に行われ、かどやの周りにも例年通り露店が立ち並び、大勢の人で賑わった。



かどやでは平成二十五年の開館以来、毎年赤崎祭には錦町婦人会の皆さんが生花を飾っていただいております。



今年も池坊の高屋先生の指導のもと、十四点の力作が並んだ。

今回は特に、ガラスの花器を用いた見るからに涼しげな作品が多く、さわやかさが際立っていた。

かどやは、赤崎祭の日には開館時間を二十時まで延長し、普段かどやを見学する機会の少ない方々にも入館していただいている。初年度は二百七十人、翌二十六年と二十七年は約二百名が来場されたが、今年は約百名と半減した。生花が素晴らしかっただけに残念だったが、かどや保存会の清水会長は「来年は、錦町婦人会さんのご協力で報いるためにも、集客にがんばらねば」と、気合いを入れている。

なお、ゆかた祭とも言われている赤崎祭は、赤崎神社が外宮の末社で

あることから、神宮の三節祭(十月の神嘗祭と、六月と十二月の月次祭の一つである月次祭にあたり、午前十時から神宮の神職による厳かな神事が執り行われた。

スローガンは、 「下手でいい、下手がいい」 とほ絵手紙同好会作品展

絵手紙を十年以上楽しんでいるとほ絵手紙同好会の作品展が、六月一日から三十日まで行われた。

六人の会員が書きためた絵手紙約四百点が、かどやの一階座敷とカフェに展示され、見学者を和ませた。作品は、身近な草花や野菜・くだものはもちろん、鳥羽百景と題して漁港等、鳥羽ならではの風景画も多数含まれていた。

同会のスローガンは「下手でいい、下手がいい」だ。スローガンのお陰で、作品は気負いのない筆使いで、のびのびと描かれている。

《絵手紙体験教室も好評》

絵手紙を書いたことのない人に



も気軽に体験してもらおうと、六月二十日には体験教室も開かれた。

教室開催が決まったのが遅くPR不足も手伝って、参加者はたまたま見学にいられた二人を含む五人だったが、絵具や筆、はがきはもちろん、トマトやおくら、ピーマンにかぼちゃ、季節の花々から鯛やさざえ等の画材まで準備し、同好会の会員が懇切丁寧に指導にあたった。「下手でいい、下手がいい」のスローガンも強調したため、参加者も失敗を恐れることなく、絵手紙に親しんでいた。その甲斐あって、後日二人が同好会に入会したそうだ。

夏のスイーツに舌鼓 かどや調理倶楽部

「かどや調理倶楽部」では、六月と七月に夏にうれしい冷たいスイーツ作りに挑戦した。

《和と洋の味覚を満喫》

六月はきよばあちゃんさんが、芋ようかとミルクフリンを教えてくださいました。



調理倶楽部の参加者には料理上手が多く、先生候補者揃いだ。きよばあちゃんさんは、彼女の親衛隊の集まりのようでもあり、常にほのほのとした雰囲気漂っている。

今回も芋ようかん作りで、最後の加熱を忘れて冷蔵庫で冷やそうとしたところ、参加者の一人が気づき急ぎ加熱する一幕もあったが、母に

教えられながらも、やさしく見守る娘のようで微笑ましかった。ハプニングはあったものの、きよばあちゃんらしいあっさりとした甘みと芋の香りが大絶賛だった。

七月は、洋菓子が得意なミホちゃんさんが、黒トiramのクリームシジェ(牛乳と生クリーム、セラチン等で作るフランスの有名なデザート)とレモンパイを教えてくださいました。

レモンパイは「母が子供の頃によく作ってくれた」とのこと。甘すぎないがコクのあるレモンクリームが試食タイムに参加者の心を射止めたようだった。



ミホちゃんのデザートもファンが増え、九月は内容が決まらないまま、すでに予約で定員に達してしま

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設 備利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

◆◆貸部屋の案内◆◆
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五八六八六

かどや保存会 平成28年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで27年度には、301名の方々に会員登録いただきましたが、今年度はさらにこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年度(H28/4/1～H29/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713